

かめのり大学院留学アジア奨学生

月次報告レポート (2018年4月)

●研究進捗状況

私は今学期、同じ研究室の先輩とともに中国医療と介護の準市場に関する論文一本を書く予定をしている。社会保障の準市場に関する先行研究では、イギリスをはじめ、日本やドイツやアメリカなどの国をめぐる議論が白熱している。しかし、社会保障システムの整備とともに準市場化も進んでいる中国の準市場についての議論はまだ展開していない。

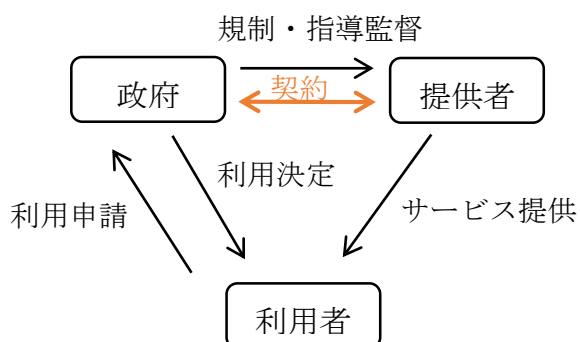
私たちは上述した問題意識をふまえ、中国の医療と介護を取り出し、平岡公一の準市場類型論を用いてそれらのシステムの中身と課題を明確にする。その上、課題の緩和策を提案していく。

国務院は、2013年に「养老服务業の発展を促進するに関する意見」を公布した。その中、「積極的に医療と養老の結合（医養結合）を推進する」を明確的に提示した。その後、中国政府は指導意見および政策を公布し、「医養結合」の展開を促している。そのため、近年「医養結合」の内実やあり方および課題をめぐる議論は国内外において熱くなっている。

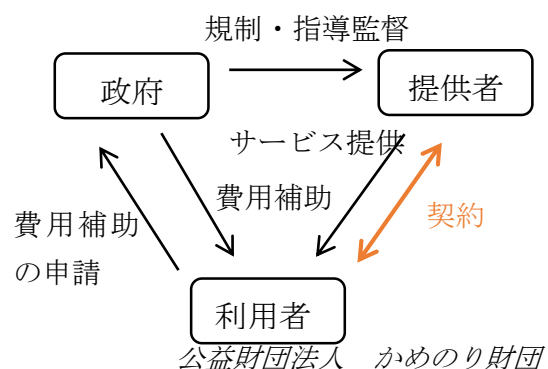
加えて、中国が社会保障の財政圧迫を背景に、保健医療福祉分野の市場化、特に提供システムの準市場の導入を行っている。その狙いは、競争原理がない公的部門の医療や福祉サービス分野において、効率化を図る。だが、「看病難、看病貴」という医療課題が依然として存在している。それに、养老服务の供給量は需要に満たされず、「養老難、養老貴」という課題も残されている。

上述したように課題の内実を問うには、サービス提供にかかわる三者である「政府」、「提供者」、「利用者」の関係を明らかにし、根本的な問題を指摘すべきだと考えられる。三者の関係を明示したのは、平岡公一の準市場類型論である。平岡公一（2013）は、消費者の購買力の経路に着目して、準市場の2つの型を①サービス購入型と②利用者補助型に分類している。（整理中）

①サービス購入型



②利用者補助型



●生活状況

今月から新たな学年が始まり、私は博士課程2年生になりました。といっても生活には大きな変化がないと思います。ただ、自分の心境が少し変わりました。今月、私は28歳の誕生日を迎え、博士課程の2年目に入りましたが、自分の博論の枠組みはまだしっかり整理できていないので少し焦っています。私は焦ると物事をきちんとできない性格です。ですので、その気持ちを整理した上、自分の研究に専念しようと思っています。